

日本社会福祉学会

学会ニュース No. 22

1999年9月25日

会員のお出かけを歓迎いたします

日本社会福祉学会
第47回全国大会
大会委員長 江草 安彦



日本社会福祉学会第47回全国大会開催校として、会員の皆様が全国からこの岡山の地にご参集下さることを心から歓迎申し上げます。

岡山県は、石器時代以来数万年の歴史をもち、奈良時代に出来上がったとされる古事記、日本書紀にも吉備の国として度々物語に登場するところです。また、社会福祉に関しても、留岡幸助、石井十次、山室軍平などを輩出すると共に、民生委員制度の原型としての済生顧問制度発祥の地であることは皆様既にご承知の通りであります。さらに、岡山の福祉と文化に大きな足跡を残した大原孫三郎や、片山潜や竹久夢二が生まれた土地でもあります。

このような歴史と文化の町岡山で、日本社会福祉学会第47回全国大会を開催できることは大きな喜びです。

伝統をもたれている先輩諸校に比べ、わが校は開学9年目をやっと迎えた新人ですが、新人は新人なりに精一杯の努力をさせていただこうと、医療福祉学科の教員が一丸となって、準備に取り組んでおります。現在のところ研究発表題数もこれまでの状況を維持させていただきそうですし、今年初めての試みであります、会員による企画シンポジウムも6本のエントリーがあり、嬉しい悲鳴をあげているところです。

今回は「岐路にたつ社会福祉理論の動向と課題」をメインテーマに掲げました。社会福祉が大きく変わろうとしている現在、理論は、またその理論に則った実践はどうあるべきなのであろう、という観点で会員諸氏の研究発表、シンポジウム、また会員による自主企画シンポジウムを通してこの課題を整理していただければと願っています。

また本大会では、「産業の視点からみた福祉」というテーマで、元岡山県副知事、現通商産業省大臣官房審議官の太田房江氏に記念講演をお願いいたしました。社会福祉基礎構造改革でも、サービス提供主体の多様化による競争原理の導入、経営理念の導入などが指摘されているなか、我々社会福祉の研究者、専門家にあらたな視点を与えていただけるのではないかと大いに期待しています。

大会の懇親会は、岡山、とくに倉敷らしさを演出できないものかと検討を重ね、大会会場となる本学から近いチボリ公園内のアンデルセンホールでもたせていただくことになりました。秋の夜長、日頃の疲れをいやしていただく一助になれば、この上ない喜びです。

ぜひ、歴史と文化の倉敷へお越しください。

実行委員会一同、心から皆様のおいでを歓迎いたします。



1999年度 第1回理事会 報告

- ・開催日時 1999年7月10日(日) 13:00~17:00
- ・出席者
 - ・理事14名 監事2名(氏名は別掲)
 - ・オブザーバー3名
 - 竹内一夫(第47回大会事務局長)
 - 秋元 樹(第48回大会事務局長)
 - 岡部 卓(山崎理事代理・関東部会)
 - ・事務局1名

第1号議案 1998年度事業報告・決算・監査報告について

提出された資料を説明し、質疑をへて承認
 ・97年度よりの繰り越しが1,000万円余あったものが半額になっている。会費の値上げになるのか。
 —資料は、総会資料に掲載予定。(事務局)

第2号議案 1999年度会計補正予算案について

提出された資料を説明し、質疑をへて承認
 ・「補正予算は本来赤字の出そうな年度末近くにやるものだが、年度初めにやるのはどうか」という意見が出されたが、現行方式は総会の時期との兼ね合いで決められてきた事を確認。
 —資料は、総会資料に掲載予定。(事務局)

第3号議案 地方部会還元金について

各地方部会とも、部会の活性化のために還元金を有効に使用している。本年度は従来どおりとするが、広域な地方は、一定割合ではまかなえない面もあり(移動に経費がかかる等)今後検討する。

第4号議案 2000年度事業計画案・予算案について

提出された資料を説明し、質疑をへて承認
 ・学会の裾野を広げる、活性化ということで、地方学会という言葉を使っているが、部会という名前の方がよいのでは。
 —資料は、総会資料に掲載予定。(事務局)

第5号議案 第47回大会(川崎医療福祉大学)について

- ・大会申込み465題・16分野・75会場・150座長になる。
- ・シンポジウムにはコメンテーターをもうけた。
- ・研究発表で、海外の大学と共同研究をしている場合、共同研究者が会員ではないときもあり発表ができにくい。→今回は規則どおりとする。

- ・発表日時指定が多く(いつ、誰と続けて等)考慮する。

第6号議案 第48回大会(日本女子大学)について

- ・48回/開催期日は11月3日、4日を考えている。
- ・会場は川崎市にある西生田校舎の予定。
- ・シンポジスト、司会者を早めに決め、内容の検討など、打合せをしたい。
- ・シンポジウムテーマの原案について各理事の意見が求められた。

49回大会/琉球大学を中心をお願いしたい。

50回大会/日本社会事業大学をお願いしたい。

第7号議案 入会審査について

157名について承認(氏名は別掲)

第8号議案 日本学術会議について

- ・理事を対象に、日本学術会議委員および推薦人について選挙を実施する。

第9号議案 査読委員規定について

- ・もう1~2回様子を見て、規定をつくりたい。
- ・論説の枠と研究ノートの枠の区別が曖昧で、その他にも現実的には大変時間をとっている。
- ・論文応募数が多く、年3回発行を考えなくてはならないかもしれないが、経費を考えると、名簿の有料化等何らかの形で捻出しなくてはならない。

その他

- ・大会や機関誌のことを考えると会費の値上げの時期ではないか。
- ・安田生命社会事業団より後援名義の使用、日本学術会議50周年記念シンポジウムの共催の依頼がきている。 — いずれも「承諾」する。

1999年度第1回理事会出席状況

役職名	氏名		役職名	氏名	
会長	大橋謙策	○	中四国担当理事	鈴木 勉	○
会長職務代行・関西担当理事	岡本民夫	/	九州担当理事	保田井 進	○
総務担当理事	高橋重宏	○	理事	一番ヶ瀬麻子	/
研究担当理事	小田兼三	○	理事	右田紀久恵	/
渉外担当理事	古川孝順	○	理事	岡本 崇一	/
機関誌担当理事	白澤政和	○	理事	京極 高宣	○
庶務担当理事	田端光美	○	理事	田代 匡次郎	○
北海道担当理事	杉村 宏	○	理事	三浦 文夫	/
東北担当理事	佐藤嘉夫	○	理事	宮田 和明	○
関東担当理事	山崎美喜子	/	監事	佐藤 進	○
中部担当理事	高島 進	○	監事	中垣 昌美	○



入会希望者の審査結果…… 157名の入会が認められました。

朝倉 美江 埼玉純真女子短期大学
 阿部 香子 淑徳大学大学院
 李 鳳和 同志社大学大学院
 李 明姫 佛教大学大学院
 飯塚美穂子 明治学院大学大学院
 石田 久二 福岡県立大学大学院
 伊藤嘉余子 同志社大学大学院
 伊藤 信司 日本福祉大学大学院
 伊藤 泰三 大阪府立大学大学院
 伊東 安男 建昌保育園
 井本 浩之 西九州大学
 W.G.ブルームン グマン 九州保健福祉大学
 上原 貴夫 長野県短期大学
 植村 英晴 日本社会事業大学社会事業研究所
 魚崎 須美 兵庫県立介護福祉高等技術専門学院
 内山 憲介 長崎ウエスレヤン短期大学
 内山 治夫 岡崎市役所
 大川真紀子 神戸常盤短期大学
 大久保澄子 日本橋女学館短期大学
 大友 康博 北海道大学大学院
 岡田耕一郎 東北学院大学
 岡田登史彦 ムーンバット(株)
 岡部由紀夫 西九州大学大学院
 緒方 由紀 佛教大学
 荻野 利子 九州保健福祉大学
 小野 剛 鶴見大学
 梶原 佳子 九州保健福祉大学
 片岡 正喜 九州保健福祉大学
 片山 徹 日本福祉大学大学院
 加藤佐千子 ノートルダム女子大学
 金川 洋 社会福祉法人春光福祉会
 金田 桂子 福岡県立大学大学院
 鎌田 滋子 岩手県立大学
 茅原 聖治 大阪府立大学
 川上 華代 関西福祉大学
 川瀬まゆみ 兵庫県立介護福祉高等技術専門学院
 菊島 和子 神奈川県総合リハビリテーションセンター
 北島 宏子 Sahmyook Univ.
 金 英淑 淑徳大学大学院
 木村 美奈 千代崎医院
 草深 一夫 秋田桂城短期大学
 工藤 久 九州看護福祉大学
 隈 直子 九州保健福祉大学
 栗栖 照雄 岩手県立大学
 栗本かおり 城西病院
 紅林奈美夫 愛知新城大谷短期大学
 黒川雅代子 福岡県立大学大学院
 黒須 依子 福岡県立大学大学院
 黒田 隆之 大阪府立大学大学院
 見野 久敏 心身障害者福祉協会 国立コロニーのぞみの園
 古賀 靖之 西九州大学
 小久保裕美 日本福祉大学大学院
 小島 和貴 中部学院大学
 小林 薫 東京都立板橋技術専門校
 小宮 一彦 東海工業高等学校
 近藤 克則 日本福祉大学
 近藤 鉄浩 山口県立大学大学院
 齋藤 なを子 鴻沼福祉社会そめや共同作業所
 齋藤 征人 北海道医療大学大学院
 齊藤 弥生 大阪外国語大学
 酒井 栄蔵 品川区立心身障害者福祉会館
 坂本 智代枝 大正大学
 坂本 正路 関東学院女子短期大学
 佐々木民夫 岩手県立大学
 佐々木哲二郎 加計町国民健康保険病院
 佐々木 宏 北海道大学大学院
 佐藤 順子 神奈川歯科大学
 塩谷 久子 広島国際大学
 志賀 文哉 青森県立保健大学
 渋沢田鶴子 コロンビア大学
 渋谷 文香 日本福祉大学大学院
 神木 亜美 関西学院大学大学院
 徐 嘉隆 淑徳大学大学院
 杉本 浩章 日本福祉大学大学院
 スティープ トムソン 長崎ウエスレヤン短期大学
 平 由美子 西九州大学大学院
 高須真紀子 筑波大学大学院
 高橋美岐子 日本赤十字秋田短期大学
 竹川 俊夫 同志社大学大学院

竹田 徳則 日本福祉大学大学院
 武田優美子 日本福祉大学大学院
 竹中 理香 日本福祉大学大学院
 田代 哲郎 かながわ共同会 厚木精華園
 立松 照康 日本福祉大学大学院
 立柳 聡 福島県立医科大学
 田中恵美子 日本女子大学大学院
 田中 陽子 九州保健福祉大学
 田村 圭子 関西学院大学大学院
 崔 鍾赫 韓国江南大学
 中田 眞槻 九州保健福祉大学
 陳 麗テイ 淑徳大学大学院
 辻 美也子 奈良県社会福祉協議会
 寺島 彰 国立身体障害者リハビリテーションセンター
 寺戸由紀子 東京家政学院大学
 徳重 篤史 東京家政学院大学
 友川 礼 日本社会事業大学大学院
 中村 強士 日本福祉大学大学院
 中村 俊之 知的障害者入所更生施設やまぶき園
 中山 慎吾 鹿児島経済大学
 中山 正雄 白梅学園短期大学
 西村 章次 埼玉大学
 布田智香子 日本福祉大学大学院
 野田 秀孝 日本福祉大学大学院
 野中 時代 日本福祉大学大学院
 信時 正人 三菱商事(株)
 長谷川正志 日本福祉大学大学院
 浜島 勝美 愛知県立一宮東養護学校
 早野 禎二 東海学園女子短期大学
 原口 幹雄 東京家政学院大学
 朴 勝昊 Seoul Women's Univ.
 樋川 隆 山梨県庁福祉保健部障害福祉課
 樋口美智子 ノートルダム清心女子大学大学院
 平田 朋子 社会福祉法人衆善会和敬学園
 平野 敦司 神奈川県総合リハビリテーションセンター
 廣瀬はつみ 日本福祉大学大学院
 藤田 倫子 九州保健福祉大学
 藤田由美子 九州保健福祉大学
 藤原 千沙 岩手大学
 Beverly Lee プリテッシュ コロンビア大学
 保住 芳美 川崎医療福祉大学大学院
 細越久美子 岩手県立大学
 洪 淳慧 Seoul Women's Univ.
 本田 芳香 日本社会事業大学大学院
 前園 真毅 淑徳大学大学院
 前田 和彦 九州保健福祉大学
 益田 早苗 青森県立保健大学
 町 勝男 八戸市立小菊荘
 松浦 信二 秋草学園福祉教育専門学校
 松浦 俊弥 千葉県立印旛養護学校
 松沼 記代 群馬社会福祉短期大学
 松本 真実 九州保健福祉大学
 松本由美子 九州保健福祉大学
 松山 加代 愛知新城大谷短期大学
 三浦 優子 新宿恒心クリニック
 水野喜代志 松山東雲短期大学
 水野 剛士 ウメオ大学大学院
 峰尾 一路 九州保健福祉大学
 宮崎 芳紀 住友生命総合研究所
 三輪 直之 宇部短期大学
 武藤 裕子 日本大学大学院
 村上 武敏 日本福祉大学大学院
 望月 珠美 茨城キリスト教大学
 本岡 吉彦 学校法人九州文化学園
 安岡美美子 会津大学短期大学部
 山内 弥子 淑徳大学大学院
 山崎 久子 長崎短期大学
 山崎 安則 筑紫女学園大学
 山田壮健 日本福祉大学大学院
 山屋 春恵 日本社会事業大学大学院
 弓 洋平 西九州大学大学院
 横山 順一 上越保健医療福祉専門学校
 吉岡 敏 愛知新城大谷短期大学
 大和 正克 大谷大学短期大学部
 吉田 雅子 順天堂大学医学部附属順天堂医院
 吉田みゆき 北林病院
 米村 美奈 淑徳大学大学院
 李 建胤 愛知新城大谷短期大学



日本社会福祉学会 第47回全国大会開催のご案内

日本社会福祉学会は、第47回全国大会を、川崎医療福祉大学で開催いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

大会テーマ： 岐路に立つ社会福祉理論の動向と課題
期 間： 1999年10月9日（土）、10日（日）
会 場： 川崎医療福祉大学

I 大会日程

第1日 10月9日（土）

9:00 受付開始
10:00～11:40 自主企画シンポジウム(1)、自由研究発表
11:40～12:30 休憩・昼食
12:30～14:00 学会年次総会
14:00～15:00 記念講演
15:00～17:00 大会シンポジウム
18:00～20:00 懇親会（倉敷チボリ公園アンデルセンホール）

第2日 10月10日（日）

8:30 受付開始
9:00～12:00 自主企画シンポジウム(2)～(5)、自由研究発表
11:00～12:00 ポスター発表 質疑応答時間（ポスター掲示は9:00～14:00）
12:00～13:00 休憩・昼食
13:00～15:00 自由研究発表
〈9:00～14:30 関連学会・研究会・紹介コーナー〉

II 記念講演（会場：体育館）

日時：10月9日（土） 14:00～15:00

「産業の視点からみた福祉」

通商産業省大臣官房審議官

太田 房江 氏

太田房江氏 略歴

昭和50年 東京大学経済学部卒業
同年 通商産業省入省（産業政策局産業構造課）
51年 生活産業局通商課
53年 通商政策局総務課
54年 米国スタンフォード研究所研究員
55年 産業政策局総務課産業組織政策室
57年 中小企業庁指導部取引流通課長補佐
58年 国土庁地方振興局地方都市整備課長補佐
60年 資源エネルギー庁長官官房企画調査課長補佐
62年 大臣官房広報課長補佐（法令審査委員）
63年 産業政策局産業労働企画官
平成 2年 通商産業研究所研究部研究主幹
4年 生活産業局住宅産業課長
6年 近畿通商産業局総務企画部長
8年 産業政策局消費経済企画課長
9年 岡山県副知事
11年 大臣官房審議官（消費者行政担当）



Ⅲ 大会シンポジウム (会場：体育館)

日時：10月9日(土) 15:00～17:00

テーマ：

「岐路に立つ社会福祉理論の動向と課題」

シンポジスト：東洋大学	古川 孝順
関西学院大学	芝野松次郎
ルーテル学院大学	市川 一宏
コーディネーター：福岡県立大学	宮崎 昭夫
広島女子大学	鈴木 勉
コメンテーター：大阪市立大学	白澤 政和
東海大学	北島 英治

Ⅳ 学会年次総会 (会場：体育館)

日本社会福祉学会の1999年度年次総会が下記の日時で開催されます。会員多数のご出席をお願いいたします。

開催日時：10月9日(土) 12:30～14:00

イルミネーションに輝く チボリ公園での懇親会を 計画しました

倉敷の地で学会の一時、夕暮れのイルミネーションに輝くチボリ公園での懇親会に参加されませんか？

皆様方の日頃の疲れをいやし、思い出の一時をと、実行委員会のメンバーがない知恵を絞り、チボリ公園のアンデルセンホールを使い、懇親会を行うことにいたしました。料理も定評のあるホテルからの持ち込みで、皆様方に満足いただけるようにと計画しています。

懇親会終了後も、約2時間、公園内部で楽しんでいただけます。

また、お泊まりの岡山には、公園メインゲートからJRで約15分で着けますし、倉敷でお泊まりの場合は、数分でホテルにお帰りいただけます。

今からでも参加の申込みを受け付けますので、ぜひ多くの方がご参加ください。

(川崎医療福祉大学)

V 懇 親 会

日本社会福祉学会第47回全国大会懇親会が下記の日時で開催されます。準備の都合上、できるだけ事前のご予約(9月30日(木)までに郵便振替にて会費をお振り込み下さい)をお願い致します。

当日の参加(申込順に受付)は数に限りがありますので、お断りする場合があります。

開催日時：10月9日(土) 18:00～20:00

懇親会会場：倉敷チボリ公園 アンデルセンホール

懇親会会費：7,000円(倉敷チボリ公園入場料含む)

会場までの交通案内：JR山陽本線「倉敷駅」北口前

(当日、大会会場よりの直通のシャトルバスを運行いたします)

Ⅵ 参加費(9月30日まで事前申込み)及び懇親会費振込み先

郵便振替口座

口座番号 00960-2-142859

名称 日本社会福祉学会 第47回全国大会



Ⅶ 大会本部事務局について

【大会当日】

- ・10階大会議室に大会本部事務局を設置しております。大会当日の主要な業務は受付で行っていますので、ご用の方はまず受付にお越し下さい。
- ・大会事務局員、学生運営協力員は、腕章・名札を付けております。ご質問などがございましたら、遠慮なくお尋ね下さい。

【連絡・問い合わせ先】

日本社会福祉学会第47回全国大会事務局

所在地：〒560-0082 豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

TEL (06) 6873-2301 FAX (06) 6873-2300

◎連絡・お問い合わせに関して、大会事務局での対応は、ファクシミリ、電子メールを利用してのご連絡も可能です。

E-mail: o-conf@bcasj.or.jp

〔大会当日の問い合わせ先〕

川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科

TEL (086) 464-1022

FAX (086) 464-1149

日本学術会議報告

社会福祉・社会保障研究連絡委員会「登録学・協会」の設置が認められる

去る5月21日、日本学術会議の会議室にて、日本学術会議、社会福祉・社会保障研究連絡委員会に登録している19の学術学会・団体の代表の方々が参加し、連絡協議会議が開催されました。当日参加した登録学会・団体は日本医療経済学会、社会事業史学会、日本仏教社会福祉学会、日本医療社会福祉学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本社会福祉実践理論学会、日本職業リハビリテーション学会、日本生活学会、日本難病看護学会、日本保健医療社会学会、日本保健福祉学会、日本老年社会科学会の13学会でした。当日参加できなかった登録学会・団体の中には、「福祉研連」に委員を出している学会がありますので、実質16登録学会・団体の意見が反映された形で討議がなされました。

討議の課題は①「登録学・協会」の設置・結成の件、②その場合の分担金の使用目的と負担のあり方、③「福祉研連」の委員選出の件、④シンポジウムの開催の件等でした。

結論的には、「福祉研連」に登録した登録学術研究団体で連絡組織（日本学術会議では通称この組織を「登録学・協会」と呼んでいる）を正式に発足させることとし、「福祉研連」の日本学術会議における役割と地位を確立することに努めることとしました。「福祉研連」の活動が強化されることにより、科学研究費

の配分や国際会議への助成、ひいては社会福祉・社会保障の教育・研究活動、社会福祉学の社会的評価に関して一定の役割を担うことが可能になってきます（1999年度より科学研究費の配分については当面第1段階レベルであるが社会福祉分野が独立し、審査を行うことが出来るようになった）。（「福祉研連ニュース」抜粋）

また、『日本学術会議福祉研連ニュース』が本年9月1日付で創刊されました。各連絡委員会宛には理事数程度送付されています。

創刊日：1999年9月1日

日本学術会議

福祉研連 ニュース

創刊号

1999.9.1

発行人 仲村 隆一

編集人 田畑 光美

大塚 謙策

社会福祉・社会保障研究の更なる発展と 「福祉研連登録学・協会」の役割

日本学術会議委員 社会福祉・社会保障研究連絡委員会委員 仲村 隆一

日本の社会福祉・社会保障制度は少子・高齢社会の進展に伴い、21世紀に向けた新たなシステムを考案する転換期を迎えている。年金制度改革、医療制度改革、社会福祉系諸制度改革と社会福祉・社会保障制度の改革が自覚されており、平成11年度「厚生白書」も社会福祉と国民生活との関わりを特集している。また、高齢社会の進展と共に深刻化してきている要介護問題への対応策である介護保険制度も、11月1日（平成12年4月）の発効に向けて準備が進められている。

このような一連の社会福祉・社会保障制度改革のなかで、改めて社会福祉・社会保障の教育・研究のあり方が問われてきている。マクロ的には21世紀に求められる日本経済の発展及び社会システム並びに少子・高齢社会の進展との関わりにおいて年金制度、医療制度はどうあるべきかが「国民負担率」のあり方や負担の方法を巡って問われている。しかし、社会保障の問題は国際化の進展の中で、外国で働く日本人の社会保障問題や日本国内に在住する外国人の社会保障問題等国際的視点も踏まえて議論を深めるようになってきている。

一方、21世紀の国際社会に向けた新しい社会システムづくりの一つとして地方分権化、規制緩和はますます推進されることになり、それに伴って社会福祉研究も市町村経営と地域福祉計画、あるいは福祉コミュニティづくりと地域福祉等メゾレベルには市町村を基礎とした地域福祉実践とソーシャルアドミニストレーションが大きな課題になるざるを得ない。更に、介護保険制度におけるケアマネジメントに絡みで見られるようにミクロ的にはヒューマンサービスとしての医療、介護、福祉の連携と各々の固有の役割が改めて問われることになる。

社会福祉・社会保障の教育・研究はこれらの制度

目次	頁
「福祉研連」発刊の経緯	1
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	2
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	3
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	4
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	5
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	6
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	7
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	8
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	9
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	10
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	11
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	12
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	13
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	14
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	15
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	16
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	17
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	18
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	19
「福祉研連」発刊の経緯（付録）	20



ブロック 活動

各ブロックの活動をご紹介します

活動

東北支部

本支部は、会員が比較的少なかったこと、地理的に分散していて会員が集まりにくいことなどがあって、活動があまり活発ではなかった。また、担当理事が代わったこともあり、活動が軌道にのるのには、程遠い状態である。

そうしたなかで、大橋新会長のもとで、理事会が地方部会の活性化方針を打ち出したのを受けて、渡部剛士前東北支部担当理事のご助力をいただきながら、さしあたり以下のような方向で、取り組みを進めていく方針である。

一つは、県単位で社会福祉関連の研究活動を集約していく努力をすること。

二には、そのために県ごとに1名の方に幹事をお願いし、学会より正式に委嘱してもらうことにし、現在人選を進めている。

また、部会活動の軸としては、社会福祉学をとりまく全国的な状況変化をふまえながら、

① 本来学会活動の眼目の一である、「大学等の研究」と「現場」での実践との学問的交流および、社会福祉と関連領域との学際的な研究交流をこれまで以上にはかっていくこと。

② そのなかで、部会としての特色ある研究活動（例えば、「東北の福祉」といったようなこと）を模索していくこと。

③ 会の大小にかかわらず、会員の主体的な取り組みを、部会として援助していくこと。

などを中心に、地道に活動の定着化をはかっていきたい。

（文責・東北支部担当理事 佐藤嘉夫）

関西部会

昨年11月29日に設立された関西社会福祉学会は、本年度より本格的に始動した。

規約に明記されている目的を遂行すべく、既に新規事業に着手している。現在学会員は190名（3月26日現在）であるが、本学会は日本社会福祉学会の関西部会を兼ねているので、新会員も追々増えるものと期待されている。

学会事務局は、神戸女子大学から引き継がれ、向こう3年間梅花女子大学（人間福祉学科）が担当することになった。

本年度の主な事業計画は、以下のとおりである。

① 年次大会およびシンポジウム

- ・1999年9月25日（土）13:00～／梅花女子大学
- ・テーマ「今、社会福祉の思想を問う

——その普遍性と公共性」

- ・コーディネーター：井岡 勉（同志社大学）
- ・シンポジスト：右田紀久恵（広島国際大学）
池田 敬正（佛教大学）
岡本 栄一（西南女学院大学）

- ・コメンテーター：永岡 正己（梅花女子大学）

② 講演会

- ・2000年1月8日（土）13:00～／同志社大学
- ・講師：ヘッスレ客員教授（同志社大学）

③ 研究報告会

- ・2000年2月26日（土）13:00～／梅花女子大学
- ・若手の社会福祉従事者および研究者の研究発表を予定

④ 機関誌の発行（年1回）

⑤ ニュースレターの発行（年2回）

（文責・関西社会福祉学会事務局担当 大塚保信）



ご 案 内

英文誌 (JJSS) 2巻 原稿再募集

日本社会福祉学会の英文誌 (Japanese Journal of Social Services, 略称JJSS) の第2巻は今年の10月に発刊予定でしたが、発刊を延期し、原稿を再募集いたします。

日本からの社会福祉学や福祉の海外への発信という意味で、大きな意義をもつ英文誌です。

そこで、原稿を再募集いたしますので、こぞって応募してください。

特集やテーマなどは設定していませんので、積極的な投稿を歓迎いたします。

▶紙 幅 おおよそ日本語換算
400字×40~50枚

▶提出期限 12月末

▶提出要領 フロッピー提出

但し、印刷したものを3部送付

▶問合わせ先 研究担当理事 小田 兼三

☎ 077-543-7627 龍谷大学

☎・Fax 0798-52-4818 自宅

▶原稿送付先 日本社会福祉学会事務局

※なお、JJSS (第1巻) をご希望の方は、事務局までご連絡ください。 1冊 1,000円 (送料共)

日本学術会議50周年記念 日本学術会議医用生体工学 専門委員会 シンポジウム

日本学術会議50周年記念シンポジウムが開かれ、日本社会福祉学会が協賛いたします。

事務局連絡

▷お願い……会員の所属や住所の移動届けは、葉書かFAX等による文書でお届けください。その際に、会員番号を必ずお書きください。

▷次回の新入会員の審査……日本社会福祉学会大会期間中に理事会が開かれます (大会両日とも)。ここで入会が認められますと、機関誌『社会福祉学』41巻1号 (2000年度発行) 以降への投稿ができます。会員でない方と共同研究されている方はご注意ください。

・申込用紙はご連絡いただければ、お送りします。

・また学会のホームページからも入手できます。

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsssw/>

▷会費……会費はお支払いいただけましたでしょうか。よろしく願いいたします。

(事務局)

◆テーマ「福祉社会を創る工学・技術の連携を求めて」

◆プログラム

第1部 福祉工学の体系への期待

1. 大学教育と福祉工学

2. 臨床と福祉工学

3. 産業と福祉工学

4. 中間ユーザと福祉工学

5. ユーザと福祉工学への期待

6. 福祉社会と工学技術の体系化

第2部 福祉工学における関連学会の連携に向けて
(本学会から1名参加予定)

◆日 時 1999年11月15日 (月)

◆会 場 日本学術会議ホール

◆定 員 350名

◆参 加 費 無料

◆申込み方法 参加申込み書を郵送またはホームページで。

◆申込み先 東京電気大学理工学部電子情報工学科
助教授 舟久保昭夫
〒350-0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂
Tel 0492-96-2911/Fax 0492-96-6413
ホームページ: <http://tau.mpe.f.dendai.ac.jp/sympo/>

学会ニュース 編集後記

今年度からニュース発行が年3回となったので、No.22号が秋になりました。昨年をみると8月20日付けで、冷房があまりきかない暑い事務局作業でした。地方部会活動を前号に引き続いて掲載しました。関連学会の情報とともに国際学会・会議もお知らせできるようになればと考えています。

なお、21号から三折発送になり、お手元に届いたとき、折目が気になられるかも知れません。郵送料を節約し、少しでも学会活動へという担当者の思いにご理解のほど……。 (庶務担当理事・田端光美)

* *
発行人 大橋 謙策 学会ニュース22号
編集人 高橋 重宏
発行日 1999年9月25日
発 行 日本社会福祉学会
〒160-0008 東京都新宿区三栄町8
森山ビル西館501
TEL.03-3356-7824 FAX.03-3358-2204
E-mail ;
<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsssw/>
(印刷/南原孔版)
* *